

十勝バイオマス産業都市構想 改訂原案【概要】

1 地域の概要

各種数値データを更新しました。

【参考2】十勝の主な指標

家畜排せつ物としてバイオマス資源の可能性のある豚の飼養頭数を追加しました。

○発電におけるエネルギー自給の目標については、目標は変更せず、経過をわかりやすくするため中間評価の集計を追加しました。 【】内は計画時の目標

種類	2012年度		2017年度末集計		新たな目標(2022年度末)	
	利用量(MWh)	自給率(%)	利用量(MWh)	自給率(%)	利用量(MWh)	自給率(%)
太陽光	26,849	68.0%	173,260	77.3%	現状以上 【172,769】	82.3%【82.3%】
水力	1,433,745		1,468,098		1,541,346 【1,541,346】	
バイオマス	34,358		58,204		95,594 【95,594】	
合計	1,494,952		1,699,562		1,810,200 【1,809,709】	

○CO2排出削減量の目標については利用量(t/年)の見直しに伴い変更しました。

CO2排出削減量(千t-CO2)	2012年度集計	計画時の目標(2022年度末)	2017年度末時点	新たな目標(2022年度末)
	22,550	24,509	31,821	33,258

4 事業化プロジェクトの内容

【4-1】 バイオガスプロジェクト

再生可能エネルギーの今後の利活用の促進のため、十勝の産学官金が一体となり、バイオガスプラントで発生した再生可能エネルギーの利活用についての調査研究等を行うことを追加しました。

【4-2】 バイオエタノールプロジェクト

余剰てん菜、規格外小麦を活用したバイオエタノール製造や活用に関する記載を削除し、未利用農産物の燃料利用の取り組みを中止することを追加しました。

【4-3】 BDFプロジェクト

BDF製造量のデータを更新しました。

5 地域波及効果

【5-1】 バイオマス産業都市構想による経済効果

5年間で策定当時に見込んでいた需要額を超える142億円の設備投資があったことから、現在計画が進んでいる設備投資分を加えて、新たな需要額を120億円から170億円に変更するとともに、地域内経済効果も変更しました。

6 実施体制

現行の実施体制を継続します。

7 フォローアップの方法

(1) 中間評価 2018年に中間評価を実施し、目標や取組内容の見直しを行ったと変更しました。

8 他の地域計画との有機的連携

【8-1】 バイオマス産業都市構想の位置付け

北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区について、2017年3月に新計画の認定を受け、5年間の延長を行ったことを追加しました。

9 今後のスケジュール

本改訂原案を国に提出し、国の審査・評価を受けた後、平成31年2月開催の産業経済委員会に最終案を報告します。

3 目指すべき将来像と目標

【3-1】 目指すべき将来像

非常時の説明として、2018年9月に発生した胆振東部地震に伴う長時間停電についてを追加しました。

【3-2】 目指す目標

○バイオマスの利用目標については、中間評価の結果を踏まえ、バイオマスの種類別に賦存量を予測し、新たな利用率を設定しました。

バイオマス	構想策定時(2012年度集計)の利用率(%)	構想策定時の利用率目標(%)	2017年度末時点の利用率(%)	新たな目標(2022年度末)		
				賦存量(t/年)	利用量(t/年)	利用率(%)
木質系	60.1	85.0	63.2	247,951	210,758	85.0
農業残渣(圃場)	59.7	75.0	57.2	733,447	550,085	75.0
家畜排せつ物	92.1	98.0	96.3	6,548,782	6,417,806	98.0
食品廃棄物	56.1	65.0	56.6	84,646	55,020	65.0
汚泥類	49.8	55.0	93.6	11,302	11,212	99.0
紙類	93.9	95.0	93.8	11,463	10,890	95.0
植物系廃油	13.1	20.0	20.0	2,192	482	22.0
合計	87.0	94.5	91.1	7,639,783	7,256,253	95.0